ダウ理論とは

「ダウ理論」というのは、１９世紀後半のアメリカで活躍した「チャールズ・ヘンリー・ダウ」
が提唱したマーケット（市場）の値動きなどに関する理論です。

ダウ理論の 6 つの基本法則

①平均はすべての事象を織り込む

経済状況などのファンダメンタルズや、予測不可能な自然災害のような事象に至るまで
需給に関するあらゆる事象は、全て市場価格に織り込まれるという考えです。

②トレンドには 3 種類ある

主要トレンド：1 年～数年のサイクル
二次トレンド：3 週間～3 ヶ月のサイクル
小トレンド　：3 週間未満のサイクル

これらのトレンドはそれぞれ独立しているわけではありません。
二次トレンドは主要トレンドの調整局面であり、
小トレンドは二次トレンドの調整局面として考えることができます。

③主要トレンドは 3 段階からなる

第 1 段階（先行期）：下落相場が底を打ち、市場全体の考え方に反して先見の明を
持った先行投資型の投資家が逆張り(買い集め）を行う時期です。

第 2 段階（追随期）：チャート分析をもとに売買する
トレンド重視の投資家が買いを入れる時期です。

第 3 段階（利食い期）：いわゆるバブルの時期です。

④平均は相互に確認されなければならない

ダウによれば、複数のテクニカル指標が市場に存在している場合には、
すべてのテクニカルで同じシグナルが発生していない限り明らかな
トレンドにはなっていないと断言しています。まったく同時である必要はないものの、
同様の指標でほぼ同じようにシグナルが出ている必要があると説いているわけです。
つまり「複数の指標をチェックすることが必然」とされているのです。

⑤トレンドは出来高でも確認されなければならない

・上昇局面における値上がり時には出来高が増加し、値下がり時には出来高が減少するのが一般的です。
また、下降局面においてはその逆となります。

・FX では出来高は重要視されていませんが、他のマーケットでは非常に重要視されています。
FX は世界的な規模である為正確な出来高を把握できません。

⑥トレンドは明確な転換シグナルが発生するまでは継続する

上昇トレンド＝
レートが直近安値を下回らず、直近高値を上まって上昇したとき

下降トレンド＝

直近安値を下回り直近高値を上回らないまま下降したとき

トレンド発生＝
直近で高値＆安値の更新状況が逆転したとき

以上がダウ理論についての基本根拠となります。
今でも相場の重要局面ではよく出てくるワードになるので要チェックです！

ダウ理論について詳しく知りたい方は下記 URL からお願いします。

【図解】ダウ理論で必須の基礎知識！押し安値と戻り高値をわかりやすく徹底解説

有料級！「ダウ理論」を使った転換時の鉄板エントリーポイントを公開！